

部局間交流協定先の復旦大学上海がんセンターで合同シンポジウムを開催

2012年8月31日

2012年8月31日（金）、中国の復旦大学上海がんセンターで、同センターと金沢大学がん進展制御研究所との合同シンポジウムが開かれました。上海がんセンターは中国におけるがん医療ならびにがん研究の中核機関の一つです。復旦大学上海がんセンターと金沢大学がん進展制御研究所の間では、部局間交流協定が2010年7月27日に締結されました。締結に至るまでに、金沢大学がん進展制御研究所で研鑽を積んだ若手研究者が上海がんセンターの研究所で主任研究員として活躍するなど、部局間交流協定につながる土台がありました。



シンポジウムでは冒頭の、Guo Xiaomao 教授（復旦大学上海がんセンター長）、松本邦夫教授（金沢大学がん進展制御研究所副所長）、Zhihong Bao 教授（復旦大学医学院（旧上海医科大学）副学長）の挨拶に続き、金沢大学がん進展制御研究所からは、佐藤博教授、松本邦夫教授、矢野聖二教授、上海がんセンターからは Xin Hu 教授、Weiguo Hu 教授、Menghong Sun 教授、合計6人の講演がありました。講演では、がん転移や薬剤耐性に関わる増殖因子の研究、DNA ダメージ応答の研究、がんの浸潤・転移に中心的な機能を果たす膜型マトリックス分解酵素の機能に関わる研究、抗体医薬に対するがん細胞の耐性の仕組みに関わる研究、分子標的抗がん剤に対する肺がんの耐性獲得の仕組みとその阻止の研究、上海がんセンターにおける膨大な組織バンクの構築と運営に関する研究が発表されました。シンポジ

ウムには100名近い大学院生、学生やスタッフが参加し、たくさんの質問に盛り上がりました。

復旦大学上海がんセンターと金沢大学がん進展制御研究所との合同シンポジウムは、これからも上海と金沢で交互に毎年実施されることが計画されています。継続的なシンポジウムを介して大学院生や若手スタッフによる共同研究が着実に増えることが期待されます。また、復旦大学上海がんセンターと金沢大学がん進展制御研究所との部局間交流協定は、がん医療やがん研究における東アジアの知の拠点としての役割を果たす金沢大学の重要な国際連携の一つと期待されます。